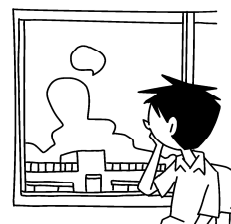


第1回進路希望調査に詰まったみんなの未来

第1回進路希望調査を行いました。進路選択は、単に高校や職業を選ぶことではなく、自分が自分の人生をどのように生きて行くのかを考え、その目標や夢に向けて生活し努力していくことです。つまり、自ら自分の進む道を切り拓き、一生懸命努力していくことです。ひとりひとりの進路希望調査を確認して感じたことは、全員がしっかり考えようとしているということです。もちろん多少の感覚の違いはあるでしょう。それでも、どの1枚もみなさんの「将来の自分」に対する思いがぎゅっと詰まったものであることは変わりません。だからこそ、そこに書かれてあることの実現に向けて、私たちも本気で向き合っていきたいと思っています。様々な資料を提供したり、考え方の転換を促したり、アドバイスなどをしていきます。時には厳しい言葉で伝えることもあるでしょう。しかし、私たちは皆さんの味方であることを忘れないでください。皆さん以上に、私たちも諦めない気持ちで、皆さんの進路を考えていきたいと思っています。しかし、あくまでも進路選択の最終決定は皆さんと家族で行います。自分の希望を大切にしながら、十分に話し合ってください。

さて、今回の調査を通して、多くの方が不安に思っていたり、迷っていたりしていることもわかりました。この悩みはほとんどの人が共通に感じていることですので、自分だけの悩みと考えるのではなく先生や周りの友人と一緒に乗り越えていこうにしましょう。個人的な内容のものは担任を通して、直接話をしていきますが、全体に関わる質問については内容を、「学習のこと」「成績のこと」「入試のこと」「その他」に分けて2回に分けて掲載していきます。今回は「学習のこと」と「成績のこと」です。



質問	質問	アドバイス・回答
成績関係	1 現時点での自分の力	確認テストの結果で、どの範囲がどれだけ理解できているか(定着しているか)がわかります。9月以降は3年生の学習範囲が加わりますので、より明確に自分の力を“確認”できます。確認したらできなかったところを修正して、明日は“現時点の自分”を乗り越えていくんです。一問でもできるようになって次へ…。その繰り返しで一步一步、目標に近づいて行きます。それが進路と言うものなんです。
	2 ・自分が今どのくらいの合格可能性があるのか ・自分が入りたい高校に学力が足りているかどうか ・志望校に合格できるか	可能性は十分あると思います。今は“限界”を決めずに、たくさん問題を解いたり、部活動を頑張ったり、興味がある学校に行ってみたりしながら、自分が本当に「行きたい高校」を絞っていきます。学力が追いついているかどうかを判断するのはその先です。時期で言うと秋の三者面談の頃でしょう。それでもまだ“伸びしろ”はあるから、本当にギリギリまで頑張れば、どんな結果でも満足できると思います。5月現在でみなさんに言えるのは、入りたいと思った高校に行ける努力をすること、努力ができるくらいの目標を持てるように、オープンキャンパス等でいろいろな情報を得ることです。
	3 今の成績で志望校に合格できるかどうか	できます。というより、できるようにするんです。今、自分から見て“志望校”がどの高さにありますか。見えているけど手が届かない…。それでもいいんです。進路通信2号で紹介した絵のように、その土台を作ればいいんです。夏はこれからです。まだまだ十分時間はあります。毎日の積み重ねを大事にして、秋になるころにもう一度志望校に手を伸ばしてみましょう。きっと近づいているはずですよ。それまでは、がむしゃらに土台作りの勉強、学校生活の充実へ励むときです。
	4 模試ではよい結果がでるが、定期テストでは成績が伸びないこと	定期テストは学校の先生が問題を作って、それを解きます。模試や確認テストは外部の組織が問題を作ります。定期テストは教科書内容の確認です。基礎基本の理解をしっかりとすべきだから、わかりやすく言うと、「深く」その理解を問う問題が多いのです。また、採点についても定期テストは減点が多い傾向にあります。本番入試は“差をつける採点方法”ですから、わずかなミスも避けたいですね。その1点が合否に影響する場合も出てきます。普段から細かいところまで意識してほしいから、定期テストでは厳しく採点するようにしています。そういう点でも、思ったより点数が低く感じることもあるかもしれませんが、でも、一番大事なのは定期テスト直後の学習法です。ほとんどの人は終了後に安心して少し緩む傾向がありますが、テスト終了後こそ、力を伸ばすチャンスです!定期テストのあとに間違えたところを確認し、つまづきの原因まで戻って復習することで、その苦手を解消できます。さらに、できた問題でも解くスピードを少しでも早くするために工夫したりして、確実にマスターしていくための復習をするといでしょう。3年生は復習と新しい学習を並行して行うので、定期テストを上手に利用していくようにしましょう。自ずと結果にも結びつきます。
	5 通知表がどれくらい影響してくるのか	例年、群馬工業高等専門学校(群馬高専)の推薦入試の要綱には、具体的に評定合計が受験条件として明示されています。推薦入試を受験する場合には、その条件をクリアする必要があります。公立高校の選抜試験における検査項目は、「調査書」「学力試験(総合問題)」「面接」など複数にわたっています。比重は各校によって異なりますが、「調査書」は必ず含まれます。これは学校生活全体の様子が記載されています。通知表に記載されている様々な項目(教科評定、行動の記録、総合評価、行事等への取組など)が検査対象になると考えると、通知表はどの受験にも影響があると考えてよいでしょう。皆さんの頑張りを、当日の入試結果だけで判断されたくないですね。
	6 評定が足りているかどうか。どうしたらわかるか。	通知表の合計から平均を出してください。例えば、1年生9教科1～3学期分の合計÷27=1年次の評定です。同じように2年生も出します。3年生は1学期の分の合計÷9でとりあえずは出してみましょう。実際は2学期も含まれるので、その結果、増減があります。実際の評定は伝えられませんが、通知表の評定で計算したものと考えてもらってかまいません。平均で計算するので、2学期の期末であと0.2あげるという状況になってしまうと、2教科2ランクアップ(3から5へ)しないとならないので大変です。だから今から頑張っておくことが大事なのです。ちなみに、各校で基準になる評定平均は、明示されている高校もありますが、多くの高校では明示していません。したがって、学校側が知り得る限りの情報をもとに、進路指導を進めていくようになります。評定平均は0.1でも高い方がいいのは確実です。特に実技教科は普段の授業への取組も大事ですね。
	7 今からでも挽回可能か	十分可能です。というより、今現在でそのような気持ちになっていることに感心します。思い立ったら吉日。誰にでも“やる気スイッチ”はあるんです。そのスイッチをONするのは皆さん自身ですが、私たち大人はそのきっかけになれると思っています。「ちょっとだけ勉強を楽しく感じた」「ちょっとだけやる気になった」。その“ちょっと”を積み重ねれば、挽回可能です。
	8 成績が上がるかどうか心配	新しいことに取り組んだとき、その成果は、すぐにはあらわれませんよね。停滞状態(=それほど成績が上がらない時期)が続く、ある時期を経てから、急激に上昇するカーブである「勉強の2次曲線(=2次曲線のように、急に成績がよくなる時期)」を描きます。つまり、成績がよくなる前には、ほぼ必ずと言っていいほど、「勉強をしているのに、なかなか結果が出ない時期」があるのです。ほら、自転車の補助輪を外すときも、ある瞬間からスイスイ進んだでしょう。ですから、そんな心配は無用です。それから、点数にはならなくても、間違え方がレベルアップしていることもあります。今まで空欄で×だったところに、何か記入して×だったとしたら、○になるのはもう目の前です。そういう自分の成長にも目を向けながら勉強をしていきましょう。

質問		質問	アドバイス・回答
学習 関係	9	受験勉強の進め方、時間の確保	今はまだ部活動や学校行事であまり勉強時間が取りづらい時期です。まずは、毎日コツコツと学習をしていくことと、学校の授業を集中して受けることが大切。平日は、どんなに忙しくても1時間は机に向かってその日の授業の復習をします。もちろん1時間では少ないですが、“どんなに忙しくても”“たとえ集中できなくても”、それを続けることで、自然と机に向かう時間を作れるようになります。そうなってくるとこっちのもの！「もっとやりたい」という気持ちになるので、自然と必要な時間の確保が出来るようになります。「あれ？私、こんなにできたっけ？」という自分が見つかるかもしれませんよ。
	10	第一志望に絶対に合格するために、具体的にどのように勉強したらよいか	学校での勉強を中心に、定期テスト対策や確認テストで、基礎的な学力を身につけることです。大事なものは、問題のやり直し（見直し）です。「あっ、そうだったのか」「なるほど」と思うまで、間違えた問題を解き直してください。それが“理解する”ということです。1学期はその繰り返しです。また、定期テスト対策は通知表の成績にも直結します。通知表の評定は、入試にも影響しますので、当日の入試に臨むのと同じ気持ち（・・・とまではいかなくても）、同じくらい大切に思ってもらいたいです。まずは夏までに、「行きたい高校」を「行けるかもしれない高校」にしましょう。
	11	・中1、中2の内容の復習の仕方 ・3年分の範囲の学習の進め方	学んだことを実際に自分のものにするために必要なことは、身につくまで“何度も繰り返し”やることです。授業はあくまでも理解を早めたり、深くするための助けであったりするもの。その後で“自分から”やる学習をしてください。それが復習です。おススメの復習方法として、2つの例をあげておきますので、参考にしてください。 ①4日学習したら、2日はその内容の復習の日にあてる（どうやら〇〇の忘却曲線から、このタイミングが最も効果的と科学的に実証されているとか・・・） ②復習専用ノートをつくる（このノートが自分の参考書になります。受験生にとって、「間違い」は「宝」です。なぜ間違えたのか、正解を見て“なるほど”と納得したこと（理解の流れ）を記しておきます。そしてそれを受験会場に持参するんです。何よりもの自信になりますよ。ちなみに私は大学受験でこの手を使って、当日は周りを気にせず、堂々と試験に臨むことができました。
	12	どの教科を集中して勉強したらいいか	今の段階では、まずは全教科です。授業や定期テストへの取組は、通知表の評定にも影響するので入試と同じくらい大切にしてください。ただ、3年生の今は忙しい時なので、出来るだけ授業中や学校にいる間に、その日の学習を理解しておきたいものです。そのためにはわずかな隙間時間を利用してワークなどを進めておきましょう。受ける学校が絞れてきたら、力を入れなければならない教科ができます。受験する高校や受け方（推薦や学特、前期や後期）によって科目が変わってきます。さらに、配点が変わる高校もあります。自分の受験に合わせて受験勉強を進めるようにしましょう。今は“全教科、全集中”（・・・の呼吸？・・・の型？）で頑張りましょう。
	13	・初見の文章題の解き方（国語） ・PISA型問題の記述の仕方（社会、理科）	PISA型問題とは、OECD（経済協力開発機構）が測る学力で、どれだけ知識を覚えたかではなく、覚えた知識を使って実生活の中で活用する能力です。文章題も記述問題も、まず「読むこと」が基本です。朝読書の時間だけでなく、普段から新聞や科学雑誌などのあらゆるジャンルの読みものに触れておきましょう。そしてその内容をまとめたり紹介したり、もっとわかりやすく書き直したりすることをオススメします。家族でTVを見ているときなど、どんな場面でもいいので普段から「なぜ？」「自分ならどうする？」と考える習慣をつけておくと、文章を読むときにもそのような視点で読み進めることができます。皆さんの通知表も昨年度から評価が変わりましたよね。「思考力・判断力・表現力」という評価が加わっていると思います。授業でも友達と論じ合うことが増えたと思います。その目的は、対話を通じてお互いの盲点に気づき、ともに考えを深めること。つまり授業や家庭での会話など、毎日の生活でPISA型問題への対策はできるということです。でもこれは、受験勉強というよりも、社会で生きていくための大事な学習だと思っています。大人になっても磨き続けたい力ですよ。
	14	・総合問題の克服の仕方（勉強の仕方）	共通の問題より、その学校の求める生徒像を反映しやすいため、いくつかの学校では前期選抜で総合問題を採用しています。（高崎、高崎女、前橋、前橋女など）残念ながら、あまりに広すぎてこれといった対策はないんです。とにかく、基礎から応用までしっかりと知識を身につけるだけでなく、そこからさらに日常生活の中であらゆることにアンテナをはり、関心をもつことです。過去問も出ているので、どんな感じなのか見ておくといいですね。新聞やニュースに普段から目を通しておきましょう。
	15	将来なりたい職業に就くためにはどのような勉強したらよいか	例えば、幼稚園の先生になりたいのであれば、高校卒業後に、短大等に進学する必要があります。プロスポーツ選手になりたいのであれば、そのスポーツを続ける必要があります。将来なりたい職業に就くためには、高校卒業後の進路を考える必要があります。まだ将来像がはっきりしていない中学生の現段階では、その選択肢をより広くもっている必要があります。卒業後はすぐに社会に出て働きたいと思っているのであれば、より具体的に職業について意識していると思うので、その職業にあった学科のある高校を選びます。在学中に職業につながる資格を取得できる高校も多いので、より夢に近づけるといいます。基本的に今は、学校の授業や確認テストを中心とした復習を徹底してください。
	16	どうやって受験勉強を始めたらいいか	気分よく勉強を進められるように、好きな科目の勉強から始めてみてはどうでしょう。自分の得意・不得意をしっかりと整理して対策することが大事です。まずは好きな教科の問題を解いてみて、間違えた問題を繰り返します。学習11のアドバイスにある復習専用ノートを活用するとよいですよ。
	17	勉強が追いつかない 勉強についていけないかどうか	そういうときにこそ、私たちを使ってください。私たち“先生”は、みなさんのそういう不安やつまずきに気付き、助けるためにいるのですから。授業でわからないことがあったら、休み時間や放課後、いろいろな場所で先生をつかまえて聞くんです。質問にきた生徒が理解して帰っていく様子を見るのは、先生たちにとっての励みになります。それに、どこがわからないかがわかると、私たちも授業で確認ができるから、お互いにWin Winの関係になりますよね。
	18	目の前の課題で精いっぱい復習ができない	目の前の課題ができていれば十分です。3年生は新しい学習と並行して受験勉強を進めなければなりません。あれもこれもはなかなかにできない時ですから、少し余裕がもてる時には、その課題を“こなす”だけでなく、ひとつひとつの問題に「なるほど」と思うまで考え抜いてください。間違えた問題は、間違えた原因を明らかにして、メモをしておきます。いわゆる“間違いノート”です。それをいつでも見られるようにしておいて、同じ間違いを繰り返したら、反省をする。もちろんそれも書き込んでおく。隙間時間にそのノートを見るだけでも、それが復習になります。
	19	親に言われないと勉強ができない	親に言われて勉強できるなら、それでよいと思います。受験生の親は同志であり伴走者。一緒に頑張ってくれているのですから、それは甘えていいのではないのでしょうか。ただ、「勉強しなさい」と毎日言うのも結構辛いんです。ですから、たまには「言われる前に自分から」を3日に1回くらいは心がけてもらえると、親としても助かります。その1回で、親もまた頑張れるから。
	20	正しい勉強の仕方	楽観的だと叱られてしまうかもしれませんが、“楽しい”と感じられる勉強が正しいのだと思います。「あっ、わかった」「できた！」と感じたときは、勉強が苦にならないものなんです。そう感じられたときの感覚を忘れずに、またその感覚を求めて勉強をしてみてください。「正しい」勉強は人それぞれです。参考にするのはよいですが、同じにする必要はないと思います。

